

回復期病棟入院中に職場面談を行ったが就労の定着に難渋した 高次脳機能障害患者に関する報告

事例要約：脳梗塞、高次脳機能障害、失語症、50 歳代、復職→休職

1. 患者情報

疾患名(障害名) 脳梗塞(失語症、注意機能障害)

年代 50 歳代後半

性別 男性

家族構成 妻と 2 人暮らし(子供なし)

現病歴 X 年 Y 月 Z 日、勤務中に話が成り立たないことを指摘され救急要請。来院時、失語と意識障害を認め、脳梗塞と診断され入院。第 18 病日に回復期リハビリテーション目的にて当院に転院。

既往歴 高血圧症、脂質異常症、糖尿病

生活歴 妻と 2 人暮らし。暖簾製造の会社で働いていた。休日はテレビでドラマや卓球観戦、車で買い物を行う。糖尿病のため 1 回/2 ヶ月通院。

職業詳細

勤務時間 8:00(出社)～19:00(退勤) 月末は棚卸しのため 23 時頃まで勤務

勤務形態 正社員

会社概要 製造業の配送センターに配属、従業員約 10 人

役職 部長

勤務日数 5 日/週(土日休み。土日出勤あり、ほぼ休みなし)

業務内容

AM: パソコン業務(受注数の確認)

暖簾の出荷の確認(配送業者へ)

暖簾の注文を確認し発注をかける

PM: 暖簾の汚れ確認(ビス等)

出荷の業務委託(配送会社へ)

その他 休日に残った業務をしていた(サービス残業)。仕事後は疲労が強かった。

社会資源 なし

ニード 早く家に帰りたい。復職したい。

2. 他部門情報

連携機関

○回復期リハビリテーション病棟(第 18 病日～第 73 病日)

○外来リハビリテーション(第 80 病日～約 1 年間継続中)¹

○高次脳機能相談窓口へ相談連絡(第 159 病日)²

○当事者・家族会へ参加(第 256 病日)³

○障害者職業センター(第 327 病日～第 364 病日)⁴

¹ 復職後の継続支援を目的とした。

² 社会制度や高次脳障害者の復職に関する情報収集と、外来リハ以外の支援者(相談窓口)に繋ぐために相談。

³ 他者交流・失語症訓練を目的に利用。障害者の働き方について情報を得るために提案。

⁴ 新規就労の希望があり、自身の職業能力と適性のある職業を確認するために利用。

○保健センターの高次脳機能障害相談支援窓口⁵

利用した制度 医療保険制度

3. 作業療法評価

1. 回復期リハビリテーション病棟初期評価(第 19～32 病日)

身体機能

- 運動麻痺 FMA 右上肢 66/66 点
- 感覚障害 FMA 右上肢 12/12 点
- バランス能力 FBS 56/56 点
- 歩行能力 独歩自立。屋外歩行 1 km 可能

高次脳機能

- 認知機能 MMSE 17/30 点
- 注意機能 TMT-A 155 秒、TMT-B 中断
- 知的機能 WAIS-IV 全検査 53 言語理解 61 知覚推理 69 ワーキングメモリ 62 処理速度 63
コース立方体組み合わせテスト IQ63
- 記憶機能 RBMT <標準プロフィール>12/24 点 <スクリーニング>5/12 点
※50 歳代 Cut off 値 <標準プロフィール>16/17 点 <スクリーニング>7/8 点

失語症 日常会話の理解可能だが、複雑な内容の理解に困難を示す。

表出は喚語困難、書字は文字の脱落や誤りあり。

ADL FIM (運動)84/91 点、(認知)25/35 点

≪初期評価結果のまとめ≫

- ・身体機能が保たれており、屋外歩行を含む日常生活において自立が見込めた。
- ・失語症、注意機能障害、記憶機能障害が残存する可能性があり、これらが社会復帰に対する阻害要因となる可能性があった。

2. 回復期リハビリテーション病棟退院時評価(第 60～70 病日)

身体機能

- 運動麻痺 FMA 右上肢 66/66 点
- 感覚障害 FMA12/12 点
- バランス能力 FBS56/56 点
- 歩行能力 屋外歩行 2 km 可能。公共交通機関の利用が可能(疲労感あり)。

高次脳機能

- 認知機能 MMSE 22/30 点
- 注意機能 TMT-A133 秒 TMT-B198 秒(エラー1 回)
- 知的機能 WAIS-IV(抜粋) 言語理解 79 知覚推理 78 処理速度 71
コース立方体組み合わせテスト:IQ63
- 記憶機能 RBMT <標準プロフィール>12/24 点 <スクリーニング>5/12 点

失語症 日常会話は問題なし。単語表現に困難、文章理解・表出が低下。

ADL FIM (運動)91/91 点、(認知)30/35 点

≪退院時評価結果のまとめ≫

- ・在宅生活において自立しており、公共交通機関を利用した外出や通勤も自立した。
- ・失語症および注意機能障害は残存しており、日常生活レベルの会話は可能であるが、複雑な内容や仕事に関わる作業については、聞き手側や支援者の配慮が必要であった。
- ・入院中に職場面談を実施し、業務調整案を職場関係者に提示した結果、勤務時間や業務内容について配慮を受けながら、仕事復帰が見込まれた。
- ・職場関係者に対して高次脳機能障害について説明を行い、失語症や注意障害に関する配慮やサポートが得られる

⁵ 電話連絡し当事者会や障害者職業センターの情報を提供してもらった。

と考えた。

3. 外来リハビリテーション(第 228～250 病日、利用開始 5 カ月目)

高次脳機能

- 認知機能 MMSE22/30 点
- 注意機能 TMT-A90 秒 TMT-B193 秒(エラー4 回)
- 知的機能 WAIS-IV 全検査 69 言語理解 70 知覚推理 84 ワーキングメモリ 67 処理速度 77
コース立方体組み合わせテスト IQ71
- 記憶機能 聴覚性記憶の低下あり

失語症 複数人との会話で理解が低下。複雑な内容は理解・表出ともに低下し主語や格助詞の誤りを認める。妻との会話で喧嘩になってしまう。

ADL 自宅の生活は健康管理(血圧・服薬)を含め自立。交通機関を利用し通勤が自立出来ていたが、通勤や仕事の作業後に疲労感が強く認められた。

《外来リハ評価結果のまとめ》

- ・入院時と比較して TMT-A は改善がみられたが、仕事の指示内容を忘れることや、複雑な作業の理解が困難であり、長時間の作業に対する耐久力が不足していた。
- ・失語症により、複雑な会話や表現に困難が生じ、職場内でのコミュニケーションに支障をきたした。特に複数人との会話や報告、連絡、相談(報連相)の能力に制約があった。
- ・身体能力は高く、公共交通機関の利用を含む ADL については自立していたが、体力が低下しており、通勤を含む長時間の業務を遂行には課題があった。

4. 目標

●業務内容と勤務時間を調整し元の職場に復帰することができる。

- ・公共交通機関を利用した通勤が 1 人でできる。
- ・健康管理(血圧・内服管理)が自身で行える。
- ・報連相(報告・連絡・相談)が職場上司にできる。

5. 問題点・課題

利点 回復期入院時より歩行含め ADL は自立し、身体機能の低下なし。

問題点 失語症、注意機能障害(処理速度の低下)、易疲労性、聴覚性記憶の低下

課題

○個人の課題

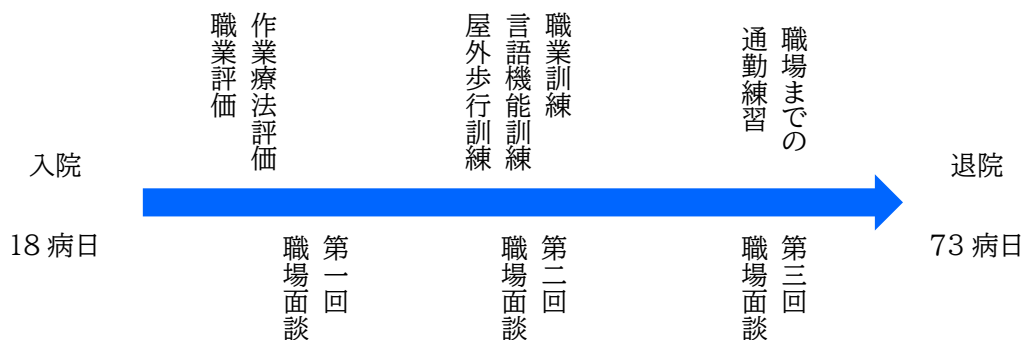
- ・PC 作業の誤字脱字が多い。
- ・複数人との会話は、疲労により内容の理解が困難となる。
- ・50 分以上の作業を続けると注意が持続せず、疲労と処理速度の低下、作業のミスが増える。
- ・通勤や作業後に疲労感が強く、業務に集中できない。
- ・通勤時の身体的疲労や業務後の疲労感がストレスとなり、業務時間の延長に耐えられない。
- ・復職後、職場でのパワハラやストレス症状が強まり、精神的な負担が増加した。

○環境面の課題

- ・妻が復職支援に対して消極的である。
- ・会社関係者に高次脳機能障害(失語症・注意機能障害)について担当作業療法士が説明し同意を得たが、復職後に業務の配慮やサポートが不十分であった。
- ・配属先の部署は従業員が少数であり、役職者の決定権が強いため、人間関係やコミュニケーションの問題が生じ、職場内で孤立してしまった。
- ・復職後の職業評価や事例のメンタルサポートを担う体制が確立されていなかった。
- ・障害者手帳が取得できず社会保障制度やサービスを活用できなかった。

6. 作業療法介入

期間 <回復期病棟>



経過

- 第 73 病日：回復期病棟退院
- 第 80 病日：外来リハビリテーション開始
- 第 91 病日：復職（パートタイム雇用）
- 第 204 病日：外来医師に診断書を作成してもらい傷病休暇を申請
- 第 228 病日：休職

支援内容

1. 作業療法介入

	第 19 病日～	第 25 病日～	第 40 病日～	第 50 病日～
介入内容	心身機能評価 職業評価	職業訓練(PC 作業等) 言語機能練習 屋外歩行	職場面談 定期面談	職場面談 公共交通機関を利用した 通勤練習

2. 職場面談⁶

	第 35 病日	第 56 病日	第 62 病日
参加	本社社長、経理 本人、担当 OT	職場上司・同僚 本人、担当 OT	職場上司・同僚 本人、担当 OT
内容	心身機能の説明 休職状況の確認 (休暇日数、手当等)	心身機能の説明 仕事内容の確認 業務調整が可能であるかの確認	就労パスポート ⁷ を使用 勤務時間や業務内容の提案。 予測される課題の提示 職場側への支援依頼

⁶ 早期に復職希望があり、入院中から職場関係者と面談を設けることで具体的な職業評価や職業訓練が行うことを目的としている。また、評価のもと職場関係者へ業務調整を提案するため。【就業規則の確認・仕事内容を確認】→【リハビリで具体的な職業評価を行う】→【本人に適した業務を職場関係者に提案】→【職場関係者が具体的な業務が調整できる】

⁷ 業務調整案や高次脳機能障害・失語症で予測される課題とサポート内容を記載

[就労パスポートの内容]

①体調管理と希望する働き方

- ・病気の特徴やストレスサインについて
- ・通院のための休暇希望、1 週間の勤務日数・勤務時間について
(※雇用形態に関しては医療関係者からは提示していない)
- ・希望する休憩時間のタイミングや作業環境について
- ・業務内容の配慮について(金銭に関わる業務や経営に直接かかわる業務は控える、電話でのやり取りや営業等の対応は控える)

②コミュニケーション面

- ・相手とのやり取りや指示の出し方についての説明
- ・失語症で生じる課題や配慮についての説明

③作業遂行面

- ・指示内容の提示の仕方や方法・手段についての提示
- ・報告・相談先についての明確化の依頼
- ・注意機能障害をふまえて作業の遂行時間や作業内容の工夫・方法について
- ・作業の正確さ、ミスに対する配慮や対処(二次チェックを設ける等)

3. 外来リハ支援

	第 91 病日～	第 113 病日～	第 182 病日～	第 208 病日～
内容	【OT】 復職後の課題 抽出・フォロー 【ST】 会話課題 PC 練習	【OT】 心理的サポート(面接)主治医・SW へ情報 共有、当事者・家族会の紹介 精神機能評価 【ST】 会話練習 PC 練習	業務調整案の再作成。 家族・本人の同意のもと 会社へ提出	休職依頼あり 外来医師が 診断書を作成 【OT/ST】継続

仕事内容

	第 91～112 病日	第 113～143 病日
業務内容	サンプル作成、ビス入れ、備品の整理	暖簾の部品作成、職場の掃除
勤務時間	5 日/週 13:00～16:30	5 日/週 13:00～16:30
心身機能の 課題	通勤の身体的疲労 数の数え間違いが多い 作業時の手の疲労	通勤・業務後の身体疲労 指示された内容を忘れる 業務の整理が苦手(混乱)
職場課題	1 回/60 分の休憩が取れない パワハラされると訴えあり 社内で居場所がないと感じる 仕事にやりがいを感じない	上司に相談するが聞いてもらえない ストレス症状出現(高血圧・不眠・食欲不振) 休職の希望あり

	第 182 病日～	第 208 病日～
業務内容	段ボール作成、備品の組み立て、物品セット準備、 掃除	梱包作業、輸出準備、職場の掃除
勤務時間	5 日/週 9:00～15:00	5 日/週 9:00～15:00
心身機能の 課題	作業速度が低下し、業務時間内に仕事が終わらない。 作業時の手の疲労。	指示された内容を忘れる。 重量(20kg)物が持てない ストレス症状が継続。
職場課題	意見を取り入れてもらえない 時短勤務を依頼したが、勤務時間が延長されてしまった。	休職依頼をしたが受け入れてもらえない。

就労後のフォローアップ

○外来リハビリテーション

Dr 2 カ月 1 回の診察。休職のための診断書作成、雇用保険の診断書作成、担当 OT/ST が作成した業務調整案の確認

OT 職業評価、高次機能訓練、心理的サポート(本人面接、家族面接、業務調整案の作成)

ST コミュニケーション練習、家族への介助指導(コミュニケーション)

SW 家族会の紹介、高次脳機能障害相談窓口の紹介、障害者職業センターの紹介、就労事業所の紹介

○障害者職業センター

新規就労の希望があったため、職業能力評価をするため、説明会に参加。約 1 ヶ月間職業能力評価を受けた。

7. 成果・結果

・回復期病棟入院中に職場関係者と 3 回面談を実施。

- ・第 73 病日に退院し第 91 病日に業務調整を行い復職。
- ・公共交通機関を使用した通勤が自立しが、フルタイム勤務は困難。
- ・復職 2 カ月後に再度業務調整案を職場へ提案し、業務調整を依頼した。
- ・職場でのパワハラが原因で、ストレス症状が悪化し、復職後約 2 カ月後に休職の意向が強まった。
- ・外来リハビリテーションでのフォローアップ後、休職を決断し、障害者職業センターにて職業評価を受ける

8. 患者や会社側の声・意見など

患者意見

<回復期入院中>

- ・入院中に職場と面談できたことがよかった。
- ・すぐに退院するつもりだったけどリハビリをやってよかった。

<復職後>

- ・自分の部下が上司になったから居心地が悪い。もともと関係性が良くない部分があった。
- ・病院と繋がっているから相談できる安心感がある。

職場意見

<回復期入院中>

- ・病気を患っている職員の雇用は初めてのため、どのように支援していいかわからなかったが、面談や就労パスポートで業務調整の提案をしてもらえてよかった。

<復職後>

- ・病院で提案された就労パスポートを基に業務調整をした。
- ・本人ができることが増えるように業務を少しずつ依頼した。
- ・本人と家族が色々言っているが(職場側は)ちゃんと支援している。

家族意見(妻)

<回復期入院中>

- ・復職して欲しいけど、何をサポートしていいかよく分からなかった。

<復職後>

- ・本人のストレスが強く、職場に出勤するたびに萎縮している。
- ・家族から電話しても、(職場上司に)強く言われて何も言えない。
- ・外来リハビリが終了したら相談する先が無くなるのが不安。

事例提供

医療法人社団三喜会 鶴巻温泉病院 森山 真子